おおとり会だより

平成３年４月15日発行
静岡女子短期大学
静岡女子大学
同窓会　おおとり会

静岡女子大学 閉学から一年に思う

静岡県立大学　美尾浩子

去る三月二十三日に、静岡県立大学第一期生の卒業式が挙行されました。日本経済全般の好調さを反映して、卒業生はそれぞれ恵まれた社会人へのスタートを切ることができました。

静岡県立大学は、静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学の発展的統合の上に、できあがった総合大学です。法制的には、県立大学と女子大学とは何もつながりはありません。

しかし実質的には、一期生は女子大生とキャンパス生活をともにしてきましたから、一期生にとっては、特にサークル活動などでは、女子大生が仲間でしたし、よい先輩であったと思います。

事実、卒業間近に一期生が行った「さよならコンサート」や「さよならコンパ」では、彼等自身の言葉として、自分たちの活動は女子大生の存在に負うところが多いと述べていました。

一期生の場合は特別で、二期生以降は、女子大生と殆ど没交渉であったように思います。彼等は、一期生を先輩として、育ってきているのでしょう。

こういう状況の中で、私は静岡県立大学国際関係学部長を拝命することになりました。自分かかかわってきた女子大や女子短大とは、あらゆる面で全く異なっている県大での大任ですが、力むくことなく、大局的判断を失わないように、心していきたいと考えています。

母校についても、様々な考え方があろうかと思いますが、私自身は、卒業する時点での母校に精神的支えを見出しています。卒業後に母校がどのように変容しても、それはそれと冷静に受け止めています。

というのも、私自身がかかわった大学は時代の流れを反映してとでも言いましょうか、多かれ少なかれ変革を経ています。静岡女子短期大学は静岡女子大学に、東京教育大学は筑波大学に、そして、静岡女子大学は静岡県立大学に、という具合です。

全く別の大学と考える方が適切であるような場合もありました。

静岡女子大学の白亜の建物が谷田の丘から姿を消したのは、確かな事実ですが、それは根源的存在にかかわる問題ではないと思っています。私自身は、母校がなくなってしまったと、後ろ向きに考えることは好みません。母校は卒業生ひとりひとりの心の中に生きていると信じます。そして、卒業生ひとりひとりの今後のありようが、母校の評価につながるものだと思います。

「不易流行」ということがよく言われます。私たちは総じて変えることに消極的ですから、新しい時代に呼応して創立された県立大学は、なじみにくいものでしょう。

しかし、県立大学の今後を静かに見守っていてほしいと思います。

長い時間の経過の中で、静岡女子大学の変革の有意味性や発展性を証明することが、静岡県立大学の課題のひとつだと、私自身は認識しています。形而上的には、もはや存在しない母校の意義について、しきと考えるこの頃です。

大石好子さん自然保護課環境緑化推進室長に！

短大被服科二回卒業生の大石さんが、四月一日付けで環境・文化部の自然保護課環境緑化推進室長に就任された。生活改良普及員を振り出しに専門技術員、消費者センター・中部県民サービスセンター所長を歴任。今後は、県知事が提唱している一家一年一木一花運動、グリーンバンク、花の会、環境緑化の部門を担当される。「今までとは違った部門ですが、公務員生活最後の仕事となるので頑張りたい。この道一筋に頑張って来られたのも家族、友達に支えられたお蔭」と言われる。大石さんは専業農家に嫁がれて職業婦人、妻、母親の三役をこなし、三人の御子様はすでに社会人となり、この四月にはお嫁さんを迎えられるとの事、公私共に充実した毎日である。

ますますの御活躍をお祈り申し上げます。

食物科

私の職場

卒業して19年、学校給食ひと筋に過ごして来ました。この原稿に取りかからなくてはと思っていた矢先に異動の発表があり、これを機会に私なりに職場を見直してみようと思います。

◎栄養士の立場

地方公務員という恵まれた環境ではありますが、施設（学校・給食センター）は市町村の所有である場合がほとんどで、その中にあって栄養士が県の職員であるが市町村職員であるかによって給与体系、福利厚生、時には仕事の内容まで異なっているのが実情です。特にその職場に一人か二人しかいない県職だと、市町村職員である上司や、他の職員達との間で、何となく孤独を感じることが多く、時たま所属の学校へ出かけても、やはり『お客さん』扱いなのです。

女性が圧倒的に多いのも、職場に独特なふんいきを作り出している一因かもしれません。県立大学で学んだ男性がたくさんこの職場に入って、新しい風を吹きこんでくれたらうれしいなと思います。

◎職務内容

一応『献立作成』や『栄養指導』というタテマエはありますが、これも給食人数や受持校数によって、天と地ほどの差がでてきてしまいます。最近では「バイキング給食」とか「選択メニュー」といって、自分で選んで食べられる方式の給食がすすめられていますが、それとても、一校に一名配置されている所と、センターで一人の栄養士が十数校、数千人を受け持つ所とで、開きがでてくるのは当然です。児童生徒の自己管理能力を養なう「食教育（生涯教育のひとつですが）」を行なうため、またキメの細かい指導計画や、手をかけ心をこめた給食を作るため、栄養士の適正配置が必要だと考えます。

というのも、私が4月から配属になる給食センターは、一万八千食で4献立、栄養士2名という所なのです。でも、がんばります。（鈴木眞理子）

筆者は学校栄養士の機関誌に毎回ユーモアあふれる文と得意な川柳を書いています。平成二年度の第41日本栄養士会が主催した「健康づくり提唱のつどい」論文募集に応募、佳作受賞しその時いただいた賞金の一部を同窓会運営基金に寄附して下さいました。益々のご活躍を祈って感謝。

英文科

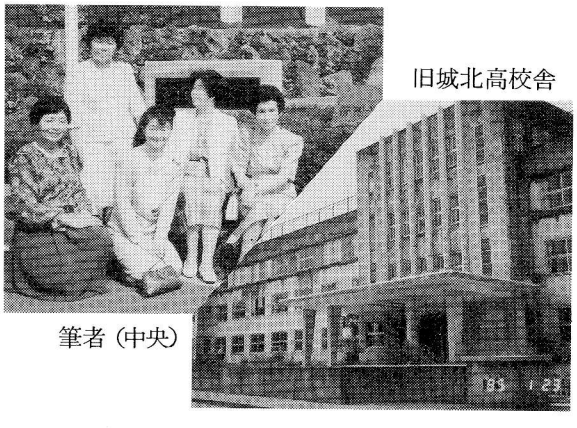
「母校の名が消えて」

母校が出世魚の如く前進を重ね、大きく変身した。今や元の名は同窓会室にしか残っていない。北安東の校舎で育った私など、親から勘当され、実家にも戻れない娘の心境と言える。一抹の淋しさと裏腹に「短大時代の悪業がこれで時効！」と高笑した途端、美尾サンに睨まれそうな予感がした。当時英文科研究室に入られたばかりで、講義もなく、頼りになるお姉さんとして、スキーや山登りをしたり、英語劇で叱られたりいつもそのファイティングスピリットを教えられつゝ、泣いて笑って一諸に青春した一年間だったから、美尾教授を「美尾サン」と呼べるのは私達八回生だけの特権である。

高嶋教授も、新妻を伴って赴任されたばかりで、お兄さんのように健ちゃんと呼びたい好青年。その誠実なお人柄は、心理学教室の「良心」と称されていた。お隣りの被服科へまだ五十代だった芹澤銈介教授が、大きな反物をヒョイと肩にのせて階段を上っていらっしゃる精悍なお姿がとても素敵で忘れられない。

歌舞伎の舞台も手がけられた島村民蔵教授は、明治の気骨をビシッと漲らせた方で、仕立おろしのお羽織の絹の匂いや、袴の裾さばきの音まで耳に残っている。島倉千代子の蠱惑美、TV体操で見る女性の躍動美がお気に入りと美学概論で伺い、その意外性に教室中が湧き上った。

斯くして思い出は、二年間の出来事とは思えない程多彩であり、二十一世紀にはこの私、静岡女子短大の語りべとなって居るのかも知れない。（深澤　恵）



旧城北高校舎
筆者（中央）

英文科

輝代子・シュミットを迎えて

平成二年八月四日・五日に思い出深い静岡で、ドイツ在住の輝代子・シュミット（旧姓　浮津輝代子）さんが、一時帰国することを聞き、誘い合える人達でクラス会をもちまし

た。突然でしたが、半数近い十四名の出席があり、東西ドイツの統合の様子や彼女の生活・生き方など、写真を見ながら、楽しく聞かせていただきました。

（実は、ドイツの彼女に原稿の依頼をしたのですが、丁度ハノーバーでメッセーを開いており、忙しくて締め切りにとても間に合わない、とお電話を頂きましたので　昨年私宛に頂いたお手紙から、抜粋して近況をお知らせいたします。）

「私は十三年前にドイツ人ウェルナーシュミットと結婚しました。主人は建築家で、私より七才若いのです。私は現地の複写機製造会社をミノルタが買収して以来、日本の社長さんの秘書として、毎日ドイツ人のなかで奮闘しております。

私達には、子供がいないので、私はまだ二十代の気分でおります。

今、再び、会社でも英語が必要なのですが、単語もあきれるほど忘れてしまい、英語・ドイツ語と二ケ国語を使いわけることは、もう不可能のようです。日本語もますます忘れてゆくようですし、漢字が書けなくなって困ります。

さて、私達は、二年ほど前までではシュツットガルト市に住んでいました。この街は、バーデンヴルテンベルグ州の主都で、南ドイツの大都市ですから、そちらの地図にものっていることでしょう。現在、私達の住んでいる所は、その衛星都市でシュツットガルトのすぐ隣町で、静かな郊外です。」

ともかく活き活きとしている彼女を見ていると、日本とドイツの女性の生き方の違いを強く感じました。

またいつか、彼女からの便りをご紹介できる機会があれば嬉しく思います。

日本の十三名の仲間もそれぞれにご活躍でした。

再就職の後、キャリヤ・ウーマンとして張り切っている人、お姑さんの看病で外出もままならないなかを駆けつけてくれた人、再婚して明るく逞しく幸せを語る人、など。皆さん何らかの形で、現在も英語を生かしておられる様子に若かりし頃の英文科生を見る思いがしました。

（後藤多須子）

被服科

ファッションの世界へ

もし、私に娘がいたとしたら、もうすぐ20才。そう思えばやはり長い道のりだったと言えるのですが、実感としては、つい昨日ブティックを始めたような気持です。

被服科を卒業してから、ファッション関係の仕事をしてみたいと思っていた私は、高校時代から、憧れていた森英恵さんの会社の商品企画室へ入りました。折りからの既製服ブームで、とても忙しく、夜の12時頃までの残業も、珍しくありませんでした。習うよりも慣れろで、夢中になって仕事に取り組んだ六年間を過した後、静岡へ戻り、グランドホテル中島屋の脇に、小さなブティックたやを開いたのです。ただ仕入れたものを売るだけでは物足りなくなって、オリジナル商品も作り始めました。シーズンごとに、ショーや展示会を行なって、お得意様のオーダーを受けております。他にない素材を集めに、染織作家に会ったり、インドの奥地にまで足を延ばす時は仕事と趣味が一体となってこの仕事を続けてよかったなと、つくづく思います。

今、ふりかえってみますと、女子短大時代のあの伸び伸びとゆったりした二年間は最高に贅沢な時間だったのですね。目まぐるしいファッションの世界で、なんとか自分らしさを表現できたのも、あの二年間に精神的に育くんだことが多かったように思います。

（小林須賀子）

みなさんも街へ出たらぜひ一度目の保養に寄ってみては？
TUTAYAの店長さんとしてステキに頑張ってますヨ

国文科

その後の動きⅡ

私共国文科は、昨年夏第二回総会を開催いたしました。大津山国夫先生、太田京子先生にもご臨席を賜わり、全国から同窓生百余名がつどいました。

又、高嶋健一先生には「短歌と私」と題して講演をお願いいたしまして同窓生一同学生時代に戻ったかのように皆ペンを走らせたものです。

席上、国文科同窓会幹事長、長屋梅子様には次のような挨拶をいただきました。

……「ふるさと」には

○懐かしく心温まるものとして捉えられるたとえ。

○安らぎを覚えたり、心のよりどころとなったりするところ。

という幾つかの意味があり、何も生まれ故郷ばかりがふるさとでなくてもよい。今日の総会で少しでも心温まるものを感じることが出来たら、まだ、寸時でも安らぎを覚え、日頃

の疲れが癒され、明日への力が蓄えられたなら、国文科同窓会というふるさとを心の奥に点在させてもいいのではないだろうか。そして引き出しの奥にしまっておいた大切な物を時々取り出して見るように、何かにつけ母校や同窓会を思い出したりする。この「ふるさと感」をもっていつまでも母校や同窓会とつながっていることが大切である。……と

嬉しいことに、会員の中には、地域社会の指導的立場でご活躍の方、福祉ボランティア活動で頑張っておられる方、児童文学の研究、執筆をされている方等、学生時代に培った知識・能力を基礎に、また、懐かしさ、嬉しさ、美しさ、力強さなどの「ふるさと感覚」を支えにご活躍されている方が少なくないと伺っています。

それぞれがそれぞれの持ち場でそれぞれの畑を耕し、心豊かな生き方をされているということは、取りも直さず同窓会の畑を耕すことになりましょう。そして日本全国、会員のいる所に、静岡女子短大、女子大学の開花結実を見ることになるのではないでしょうか。さらに実はまた萌芽するのです。

以上のような意味で母校や同窓会の存続を捉え、会員の皆様には、不安定な時代だけに精神的な潤いを失うことなく一層研鑽され、自分に与えられた役割に誇りと責任を持ってご活躍されますよう、心からご期待申し上げます。

以上のような挨拶に皆が感銘を受け、なごやかなうちに会が終了しました。

今年度は、『国文科だより』二号（平成三年三月一日発行）も済み、来年度のふるさと感を軸とした国文科総会がまたれます。

総会だより

平成二年六月三日（日）恒例の総会が県立大小講堂にて開かれました。

講師に清見潟大学塾の大石正路氏をお迎えし、演題は「流行歌大予言」で流行歌分析による経済漫談で、あっという間の一時間半でした。

昼食は、学生ホールで十名の恩師を囲み、立食パーティ形式でした。

会場には閉学を記念した写真展も同時に開催し、なつかしの写真を見ながら、学生気分に戻り、楽しい初夏の一日を過ごすことができました。

今年は六月二日（日）県立大学の講堂で開かれます。別紙にて案内があります。大勢の皆様の御参加をお待ちしています。

☆〝剣祭〟に参加

十一月三日四日、静岡県立大学の剣祭に参加しました。「おおとり会」の存在を知ってもらうためにも、なんらかの形で「剣祭」に参加しようと理事会で決定。準備期間が少なかったため充分なことはできませんでしたが、食物科の方の手作りジャムをはじめ、被服科の心暖まるような手製の袋物、そして寄附された衣類など売り上げ金四萬壱百参拾円は本会計に納入致しました。

初日は本部近くのテントの下で、二日目は生憎の雨で学舎の中で同窓会の幹事の方々の売子姿が頑張っておりました。来年度も参加したいと思っておりますが、同窓生の協力がなくてはできません。是非ご協力お願い致します。又、今回ご協力いただいた方々ありがとうございました。本年も参加を予定しております。秋の一日、御家族連れで学園祭・バザー会場にお出掛け下さい。

同窓会おおとり会室について

大学構内の旧図書館三階が同窓会の部屋になっておりまして、毎週火曜日は各科当番制で詰めております。その日以外にも、事務局に申し出て下されば、同窓生に鍵を渡して呉れますので、美術館散策の折など是非お立寄り下さい。

〒422 静岡市谷田三九五　県大内
おおとり会同窓会事務局

告知版

女子大関係　出版物案内

歌集	『草の快楽』	高嶋健一	2,500円
	『良寛私考』	横山　英	1,600円
	『難解季語辞典』	関森勝夫	4,500円
	『子育て学』 親を創る「子育て」の知恵	静岡女子大学婦人教育推進委員会	1,800円
図書	『静岡女子短期大学十六年誌』		1,500円
	『静岡女子大学二十三年誌』		5,500円

郵送希望の方は6,000円（振込用紙を送る）
同窓会事務局宛葉書で申し込んで下さい。

公開講座　生活文化ぜみなぁる

1. 創意陶芸講座ＰＡＲＴⅢ（Ａ・Ｂ）
材料費￥6,000（土、釉薬、その他一切を含む）
2. 世界文化史の新視点Ⅰ
テキスト・資料代　￥2,500
3. くらしの中のさいえんすＰＡＲＴⅡ
テキスト・資料代3,000
4. 日本伝統文化研修（第４回）
参加費未定　　6月20日㈭～22日㈯　2泊3日

各講座の内容・日時の問い合わせは
〒422　静岡市谷田395番地
静岡県立大学生活科学研究センター
「生活文化ぜみなぁる」係
TEL　054(264)5570,5571,5576

テレフォンカードもどうぞ（前号に写真入りで紹介）